

そなえ 12

2025 No.772



ヘリポート等シリーズ：PMO EX新大阪（淀川区）

こんな人 こんな話.....	2	年末の大掃除で火災予防 !!	8・9
令和7年度優良防火・防災管理者表彰	3	知りたい！消防用設備等について.....	10・11
令和7年度優良防火・防災管理者一覧	4・5	防火管理及び防災管理に関する意見・体験談入賞作品	
令和7年度防火作品入賞者表彰式	6	最優秀作品.....	12～14
令和7年度大阪市防火・防災図画優秀作品	7	要注意！冬場に起きやすい事故や病気.....	15

防火管理及び防災管理に関する意見・体験談

入賞作品

予防部予防課（自主防災管理）

最優秀作品

『消防団員としての経験を
活かした大阪経済大学の
防火防災体制』

学校法人大阪経済大学

企画・総務部 総務課

浪花 ななわ
拓也 たくや



私は現在、学校法人大阪経済大学に勤務しており、令和6（2024）年の5月から、大学の防災担当をしております。防災担当としての主な業務は、防災に係る規程やマニュアルの整備、避難訓練や防災訓練の企画・運営、教職員や学生など構成員を対象とした普通救命講習を実施しております。

現在、大学の防災担当をしておりますが、防火防災に係ることは実は20年前からやっております。2004年から現在に至るまで、京都市山科区に居住をしており、2005年に京都市山科消防団に入団し、消防団員として地域で活動が続けております。消防団に入団後、応急手当普及員資格を取得し、職場の防災担当になった昨年には、防火・防災管理者講習と自衛消防講習を受講、その後、防災士講習も受講しました。

職場は大学ですので、学生が約8000名、教職員やそのほか構成員を含めると全体で約9000名が在籍しています。一般企業とも違い、また小学校や中学校高校とも違い、かなり特殊で大規模な組織の防火防災体制が必要になります。体制を整備、教育

していくことはなかなか難しい部分があると思いつつも一つずつ前に進めていこうと日々考えているところです。その中でも私が意識しているのは、「実際に動ける防火防災体制をつくる」とことと「構成員全員が防火防災の意識を持つ」とことです。規程やマニュアル、消防計画等を策定・整備していく際に、消防法や災害対策基本法、建築基準法等の法令をクリアしなければいけません。それだけでは、実際に動ける体制をつくることはできません。また、教育や訓練を行っていったとしても、一人ひとりが防火防災の意識を持たなければ身にはつかないと考えています。ということ、私が防災担当として大学でやっていること、また今後やっていきたいことをお話ししたいと思います。

まず、やっていることの1点目として、大学での「普通救命講習」の定期的な実施です。私は消防団員として2007年に応急手当普及員資格を取得して、地域の防災訓練や地域住民を対象とした普通救命講習のサポートを行ってききましたが、その時の経験を活かして昨年4月から職場の構成員を対象に普通救命講習を定期的に行っております。通常であれば普通救命講習を受講する場合、最寄りの消防署等で実施している普通救命講習に申し込んで受講することになります。私は応急手当普及員ですので、訓練用AEDと訓練用の人形さえあれば普通救命講習を実施することができ、もちろん外部で実施している

講習と内容は同じで、消防署に受講者名簿を提出すれば修了証も受講者に渡すことができます。ということですが、まずは本学で勤務する大学事務職員を対象として4月にスタートさせました。概ね月1回5名から10名程度の希望者を対象にスタートし、秋からは教員にも対象を広げて希望者を募り実施してきました。昨年1年で約50名の教職員が受講し、修了証を渡しました。

普通救命講習を実施するにあたって工夫していることは、講習時間3時間をいかに楽しく、おもしろく、飽きさせずに興味を持って受講してもらう、胸骨圧迫やAEDの使用法、そのほか応急措置の方法を身に付けてもらうかです。講習を実施する場合は、講師によってやり方は様々ですが、私の場合は、動画やパワーポイントなどの資料は使わず、配布するテキストとホワイトボード、話術だけで3時間進めていきます。そして一方的な説明にならないように、クイズを出したり、質問したり、双方向に進めるように気を付けています。受講者の年齢や属性も配慮しながら、話す内容や進め方も毎回変えるようにしています。もちろん、消防団員としてのこれまで実際に経験してきたことも話して説得力を持たすように心がけています。例えば大阪市の昨年度一年間の救急通報件数のクイズを出して受講者一人一人に答えてもらい、答えを言う」と受講者は非常に驚きますし、心室細動の説明をする場合は、ホワイトボード

に心拍の波形を書きながら説明すると受講者も理解度が高いです。胸骨圧迫の練習をする場合は、スマホのメトロノームアプリで100から120のテンポを聴いてもらいながらやるとわかりやすいです。心肺蘇生法の演技では、救護者以外の受講者には通行人や野次馬になってもらってわざと救護の邪魔をしてもらってできるだけ実際の救護現場に近い形で講習するように工夫しています。そうすることで受講者もおもしろく、楽しみながらも、知識や実技だけでなく、気づきも得てくれます。実際に私の講習を受講した同僚の職員が、この講習をきっかけに地域の消防で上級救命講習に申し込んで受講してきたと報告があった時は、非常にうれしかったです。今年に入ってから、普通救命講習を受講した教員から、「ゼミ生に講習をしてほしい」と依頼があり、90分の「救命入門コース」の実施も行いました。今後応急手当の講習を教職員、学生にも広めていきたいと考えています。



次にやっていることの2点目は、小學生を対象とした防災出前授業です。今年の1月に近隣の小学校からお声かけをいただき、小学4年生のクラスにお邪魔して防災の出前授業を行いました。子どもたちは、総合学習の中で、南海トラフ巨大地震の被害予測を学び、防災の重要性を実感し、「防災とは何か」「どのような備えができるのか」を考えてきたということで、授業では、子どもたちが事前に調べた防災に関する質問に私が答える形で進められました。子どもたちからは、防災リュックの中身や避難時の行動、ベットの避難、寒さ対策、トイレの問題など、実際の避難生活を想定した具体的な質問が多数寄せられました。講師として参加した私の方が感心することが多く、地域に根づく防災意識の醸成という意味で、地域とのつながりという意味で、このような出前授業も今後も積極的にやっていきたいと考えています。

続いて、今後やっていきたいことの1点目は、「動ける自衛消防隊」をつくることです。私は消防団で放水訓練や小型動力ポンプ操作訓練をやっており、ホースの伸ばし方や巻き方、つなぎ方、小型動力ポンプの操作方法なども経験しています。大学にも自衛消防隊の組織が規程上ありますが、これまでそのような訓練はやったことがほとんどなく、資機材の更なる充実も進めなければなりません。消火の基礎となる消火器の使い方は昨年の避難・防

災訓練の中で展示訓練をしました。が、何度も繰り返し訓練を行わなければ身にはつきません。屋内消火栓の使い方についても過去何度かやっていますが、特定の構成員だけの訓練にとどまっています。自衛消防隊に任命される構成員には今後定期的に訓練を実施し、自衛消防隊としての知識と技術を身に付けてもらおうと考えています。今年、東淀川区自衛消防協議会にも入会しました。将来的には、自衛消防大会にも出場できるように、今後訓練をやっ
ていきたいと考えています。



そして2点目、どうしてもやりたいと思っていることは「学生消防隊」の創設です。私の居住する京都府では、平成26年度から「京都学生FAST（※1）」という、大学生による消防防災サークルの立ち上げを支援しており、現在、京都府下の大学・短大13大学、約400名の学生が各大学の消防防災サークル「京都学生FAST」に参加して活動しています。また、私の所属する京都市山科消防団には近隣の大学に通学している大学生が消防団員として毎年入団しており、地域の防災防災広報活動や防

災訓練の実施、普通救命講習の実施など日々の防火防災活動を積極的に行ってきています。卒業後はほとんどの学生団員が各地の消防署に就職しています。大阪市には歴史的に消防団はありませんが、本学の学生の中には、将来消防隊員になりたいと思っている学生も多くいますので、このような学生を集めて、「学生消防隊」を創設し、大学で実施する避難・防災訓練や普通救命講習などのサポート、地域住民との合同訓練、地域の方と合同で防火・防災広報などをやっていければと考えています。このような考えを東淀川消防署の予防担当の方にお話しした際、「ぜひ学生消防隊を創設してほしい」と非常にうれしい言葉をいただきましたので、これから創設に向けて動いていきたいと考えています。学生消防隊創設にあたっては、東淀川消防署の署員のみならずにも訓練や教育など、防火・防災に係るあらゆる部分でのご指導、ご協力を仰ぎながら、学生を育てていき、本学の防火防災だけにとどまらず、地域の防火防災にも役に立つ、学生消防隊にしていければと考えております。

最後に私の考える防火防災体制は、自治体や消防署、地域を巻き込み、防火防災のネットワークを構築していくことが非常に重要であると考えております。私は一人の「大学の防災担当」ではありませんが、そのような想いを持って、これからも防火防災体制の構築に力を注いでいきたいと考えております。

※1 京都府「大学生消防防災サークル支援事業「京都学生FAST」」：
<https://www.pref.kyoto.jp/shobo/kyotogakuseifast.html>